

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)		1年間の目標		取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価(3月31日実施)	
	具体的な方策		評価の観点		達成状況		課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	①専門性を追求した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。	①専門性に対する目的を持った意欲的な学習活動を推進し、検定合格者数を増やす。 ②③④55分授業を有効活用し、基礎学力の定着を図るとともに、共通教科及び専門教科の発展的学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びを実践する。	①資格取得や有用な各種検定への合格対策講座を定期的実施する。 ②「課題研究」および「総合的学習の時間」で学科を超えた教育活動を充実させる。 ③④「55分を効果的に活用するための授業展開」について検討し、具体的な取組を実施する。また、動機づけ、深い学びを実践するためのテーマを定め、問い、まとめ、評価についてテーマを踏まえた取組の成果を発表する。	①資格取得や各種検定の合格者が、前年度と比較増加したか。 ②商業と工業の学科を超えた連携事業を充実することができたか。 ③④学校全体として共通な取組を実施できたか。 また、テーマを取り入れた研究授業ができたか。	①アンケート結果では、資格取得・各種検定受検・各種競技会等へ積極的に参加し、学習活動を充実させることができたことと84%の生徒が回答している。昨年度から引き続き80%以上の生徒が学習活動に関して充実感を得ていると答えている。 ①3年流通コース「商品開発」の授業の一環で、ローソンとコラボ商品4品を共同開発した。ビジネスにおける貴重な経験を、プレゼン能力も大幅に向上した。 ①3年流通コース「総合実践」の授業では、地域貢献の一環として近隣の商店街での販売実習およびイベント企画を考案し、仕入れから販売まですべて生徒が行い、地域の方々から好評を得た。 ①商業科目では積極的に資格取得取り組み、珠算電卓検定は合格者が104名から166名、ビジネス文書実務検定は合格者が87名から278名、情報処理検定では98名から126名、商業経済検定では9名から34名と、昨年度と比較すると増加しており、専門科目のスキルが身に付くとともに、学習の動機付けにもなった。また、日本商工会議所主催の簿記検定取り組み始め、3級55名、2級1名の合格者を出すことができた。 ①資格取得では特に、危険物取扱者(乙1～6類、丙)の取得を目指すよう指導し、乙2は1名、乙3は2名、乙4は16名、乙6は2名、丙種は20名の生徒が取得した。 ①化学系の資格取得を目指し、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者は4名、有機溶剤作業主任者は4名、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者は5名の生徒が取得した。 ①数学検定は昨年同様10名の受検者であった。昨年より講習会の回数を増やし合格者が増加した。 ①ものづくりコンテストの参加を通し生徒へ専門技術の大切さと、ものづくりの楽しさを教えた。その結果、化学分析部門で神奈川県で3位、電気工事部門で神奈川県で優勝の成果を得た。加えて、関東甲信地区電気工事コンテストでは6位になった。さらに「若年者ものづくり競技会」への出場推薦も受け、県内で初となる快挙となった。 ①計算技術検定の資格取得を目指し、放課後等を利用した補習を行った結果、4級は103名、3級は121名、2級は3名の合格者を出すことができた。 ①漢字検定では、今まで合格者を出すことのなかった2級において、4名合格者を出すことができた。 ③④今年度から開始された55分授業を、効果的に活用するための授業展開について各教科で検討し、研究授業を実施。	①資格取得や各種検定受検、各種競技会等への参加者や合格者が増加しており、一定の成果が出ていると思われるが、15%あまりの生徒が学習活動を充実させられなかったとらえている。やる気を起こさせ意欲的な学習活動ができるように指導していく。 ①補習や課題等で検定不合格者への対応を行い成果が出ているので、引き続き学習環境の充実を目指していく。 ②課題研究等で学科を超えた教育活動の新たな取組を検討する。教科内で情報を共有して、授業で話し、主体的・対話的で深い学びの授業の実現を目指す。	(保護者) ①保護者対象のアンケートでは、資格取得・各種検定の受検・各種競技会等へ積極的に参加し、学習活動を充実させることができたことと79%の保護者が十分またはほぼ十分であると回答している。 ②商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会などを実施したことに関して、69%の保護者が十分またはほぼ十分であると回答している。 (学校運営協議会) ①授業等丁寧な指導されていて、日々の教育活動は非常に素晴らしいものである。 ②商業と工業の連携による学科の枠を超えた教育活動は非常に素晴らしいものである。是非継続して欲しい。 ③④55分授業の取組は生徒も教員も慣れいてほしい。	①資格取得や各種検定への合格対策講座を実施したことにより、意欲的に取り組む生徒が増加、また合格者も増加した。今後は、学習に充実感を得られていない生徒を指導・支援していく方法を工夫することが課題。 ④55分を効果的に活用するための授業展開を引き続き検討し、学校全体として、深い学びを実践するための取組ができるようにすることが課題。	①資格や検定取得の有用性を認識させる指導や、合格対策講座の実施等の取組により、より一層の合格者の増加を図る。 ②外部団体との連携を図り、生徒の学習の指導・支援を充実させる。 ③④生徒の主体的・対話的な学習を充実させるために、55分を効果的に活用するための授業展開を工夫する。	
2	生徒指導 ・ 支援	①社会人基礎力と豊かな人間性を育む。 ②主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ③教育相談体制の充実を図る。 ④学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。	①②基本的な生活習慣を確立するとともに、学校行事、生徒会活動、部活動への積極的な参加をとおり、自己肯定感を育む。 ③多様な生徒に対応するため、SC及びSSWを積極的に活用するとともに、外部機関とも連携を図り、校内研修を実施することで、相談体制を充実させる。	①②基本的な生活習慣や規律、マナーを定着させるために、保護者や生徒会と連携・協力して、挨拶・服装・頭髪・遅刻等の指導を積極的に行う。 ③カウンセラーの来校日について広報し、カウンセリング室をより活用しやすい雰囲気づくりを行う。また、生徒の心の悩みやいじめをいち早く認識できるよう努め、解決に向けて、職員、保護者、カウンセラーと情報交換を密に行い、教育センター等との連携した取組を行う。	①②全体的、組織的な指導により、次の事項が達成できたか。 ・挨拶をする生徒が増加したか。 ・遅刻防止指導を年5回以上実施し、遅刻の回数が減少したか。 ・服装頭髪指導を継続的に実施し、指導対象の人数が減少したか。 ③毎学期のカウンセリング日程等の広報が行えたか。 ③生徒の抱える問題や情報を把握し、支援体制が有効に機能したか。	①②基本的な生活習慣や規律マナーが定着するよう毎朝職員が正門に立ち、登校時の声かけを組織的に実施し、全校集会でも周知徹底した。年間5回、学年と生徒指導グループが協力し、遅刻指導を実施した。生徒の遅刻回数も減少している。また、生徒の状況に応じ、保護者と連携し、遅刻指導をしている。 ③カウンセリング日程等も広報を行うことにより、相談を受ける生徒が増加、活用しやすくなった。 ③ケース会議や生徒情報交換会が定着、授業担当者間での情報の共有ができた。	①②基本的な生活習慣や規律マナーが定着するよう全校集会において授業規範や身だしなみについて話をしたが、まだ十分とは言えないので今後も根気強く指導を続けて行う。 ①身だしなみ指導の強化により登下校時や授業時の服装も改善されつつある。頭髪指導・遅刻指導も根気強く指導を積み重ねたがまた改善が必要である。 ③カウンセラーの来校日が限定されているので希望者が多く出た場合の調整が今後の課題である。校内だけでなく外部機関との連絡調整も行って行く。 ③ケース会議や生徒情報交換会の情報を共有するだけでなく生徒ごとのような統一した支援体制をとるのが今後の課題である。	(保護者) ①服装・頭髪指導や自転車指導、携帯電話教室の実施等の取組によって、生徒にマナーを守る等の規範意識を持って生活するという態度が育成されたこと、75%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ③スクールカウンセラーの活用など生徒への支援体制の確立等の取組により生徒が安心して学校生活を送ることができたと、73%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ④学校行事、部活動に対する取組については58%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 (学校運営協議会) ③SNSのことについても、丁寧に指導されていて感心する。	①基本的な生活習慣やマナーが定着するよう、全校集会を実施し周知徹底を行い、手応えはあったが十分とは言えない。 ②朝・昼の巡回指導で身だしなみ指導等をしていくがマナー違反が後を絶たない。 ③カウンセリングは受ける生徒も多く、活用しやすいうである。 ③ケース会議や生徒情報交換会も定着し、授業担当者間での情報の共有もできた。 ③1・2学年の面談も実施できなかったが、保護者からの実施要望もあり検討する。	①②根気強く組織的な指導を継続する。また、社会人基礎力育成にはコミュニケーション力が必須であるため、更に向上させるべく授業や授業外で取組を強化する。 ②遅刻指導・身だしなみ指導・自転車指導を継続する。自転車のルール違反は自転車指導顧問等で周知徹底させる。 ③生徒情報交換会は全教員が参加しているので、ケース会議も授業担当者に限らず、全教員に情報の共有化を図る。 ③家庭と学校が協力し合うために面談を活用する。	

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①実際的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。③進路指導体制の充実を図る。	①学年段階におけるキャリア教育の充実を図る。②進路未決定者ゼロ。	①各学年での進路ガイダンス、1学年における「ものづくりとビジネス」、2学年における「インターンシップ」及び「仕事のまなび場」、3学年の「課題研究」等でキャリア教育の充実を図る。②進路面談等を充実させるなど、進路指導を充実させる。	①「ものづくりとビジネス」等のアンケート結果をとおして、自分の進路を真剣に考える態度を身に付けさせることができたか。①「インターンシップ」及び「仕事のまなび場」への参加者数が、前年度を上回ったか。②進路未決定者をゼロにすることができたか。	①各学年段階における進路ガイダンスを考え実施した結果、生徒が自分の進路を真剣に考える態度を育成することができた。①「インターンシップ」等への参加を積極的に促した結果、昨年度より多くの、66名の生徒の参加を実現することができた。②きめ細やかな進路指導を心掛けた結果、特別な事情のある生徒を除き、生徒自らの進路を決定することができた。	①生徒の進路決定により効果的な方法を考え、進路ガイダンス等を取り入れ、さらに充実したキャリア教育に結びつける。②今年度おこなったものの求人があり、生徒への情報提供が不十分であったことも考えられる。ガイダンスグループにてしっかりと整理し、生徒の求める情報を適切に提供できるよう、さらに工夫をしていく。	(保護者) ①商業と工業の連携による学科の枠を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会などを実施したと、69%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ②インターンシップ、清掃等の環境美化活動への参加をすることにより、勤労観や公共心、勤労奉仕の精神を育むことができたこと、65%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ③進路閲覧室の充実と支援の促進を図り、LHRや総合的な学習の時間に有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行うことができたこと、56%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。	①各学年段階における進路ガイダンスを実施し、自分の進路を考える態度を育成することができた。今後は、生徒の勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要となる能力・態度を体系的・系統的に指導が行われるようにすることが課題 ②今年度おこなったものの求人があり、生徒への情報提供が不十分であったことも考えられる。ガイダンスグループにてしっかりと整理し、生徒の求める情報を適切に提供できるよう、さらに工夫をしていく。
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を導入し、地域との協働を図る。②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①学校運営協議会を立ち上げ、学校設置部会を有効に活用することで、地域連携やキャリア教育を推進する活動を充実させる。②ホームページ、ポスターや学校説明会の内容を更新させることなどにより、PR活動を一層充実させる。	①地域連携部会やキャリア教育部会の活動をとおして、地域の行事等に積極的に参加したり、地域やOB等の外部講師を積極的に活用したりする。②学校説明会、オープンスクール及び学校ホームページの更新等を活用し、中学生、地域住民への継続的な情報発信を行う。	①地域交流行事などに積極的に参加し、充実した地域交流が行えたか。②生徒の企画・運営による学校説明会等の広報活動を充実させることができたか。②ホームページ等の情報発信を効果的、かつ速やかに行うことができたか。	①左近山田地歌声コンサートに合唱部の生徒が参加し交流を行った。昨年同様、今井音楽フェスティバルに吹奏楽部が参加し、今井地域ケアプラザへの訪問演奏に吹奏楽部と合唱部が参加して昨年以上に利用者の方々に喜んでいただけた。②本校で定着した生徒主体の学校説明会の体制をさらに整え、学校説明会自体が本校の魅力として中学生に認識されるまでになった。アンケートでも好評を得た。実行委員の生徒人数も14名から20名が増え、生徒会や部活と協力しながら広報活動を行うことができた。②商工高校ならではの取組などをホームページに速やかに掲載することができた。動画を制作、掲載し、より内容の濃い情報発信をすることができた。②学校説明会のアンケートでは、学校説明会をホームページによって知ったと回答した中学生と保護者が38%で、最も多かった。	①地域交流行事は定着してきているが、一部の部活動の力に頼っていることは否めない。地域交流への参加方法・参加母体については、さらに調整を図り、できるだけ多くの生徒が参加できるよう協力を求めていく。②今後は部活動の情報発信するなど、広報活動をより充実させるために方策を検討していく。	(保護者) ②生徒の企画・運営による中学生対象学校説明会の実施や効果的かつ速やかなホームページ等の情報発信を通して、広報活動を充実させることができたこと、59%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ②近隣自治会の夏祭り、もちつき大会等地域の行事への教員・生徒の積極的参加や地域清掃活動の実施により、地域との交流や協働を図ることができたこと、46%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。この内容については34%の保護者が分からないと回答しており、評価していただく材料が十分に保護者に伝えられていないことがわかる。 (学校運営協議会) ①高齢者と高校生が交流する機会を増やしてほしい。 ②後輩に先輩の姿を見せることが重要。現役生のモデルだけでなく、卒業生のモデルを見せることも良い。	①地域交流行事への参加は定着してきている。今後も積極的に交流機会を増やすことが課題 ②ホームページを活用し、学校説明会をより充実したものにし、専門学科の特色の周知を図る。迅速に提供した。
5	学校管理 学校運	①安全安心な学習環境を維持構築する。②ミッションに沿った学校経営の推進を追究する。③教育公務員としての規範意識を醸成する。	①規範訓練の充実及びDIG(災害図上訓練)、HUG(避難所運営ゲーム)の実施、②スチューデントファーストの視点に立った教育活動。	①3年目の実施となるDIGの資料を見直し充実を図る。また、HUGの実施に向けた内容を検討する。②ミッションに沿った学校経営の推進や学習環境の維持を構築するうえで、常にスチューデントファーストを意識し、教育活動を行う。③職員の規範意識等の意識向上のために、人権・体罰等の研修を全員参加で行う。	①DIGの資料を充実させ、生徒が取組やすくなったか。HUGが実施できたか。②R-PDCAサイクルを実践し、スチューデントファーストの視点を意識した教育活動ができたか。③職員の規範意識の向上を図れたか。	①DIGの資料を充実させ、生徒の防災意識が高められた。8月にHUGに関する研修会を実施し、内容について理解した。②アンケートでは、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」をあわせて92%の教員がR-PDCAサイクルを実践し、スチューデントファーストの視点を意識した教育活動ができたことと回答した。③アンケートでは、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」をあわせて97%の教員が、日常点検の実施により危機管理意識を高めると共に、AED操作の研修や、外部講師による人権研修会や事故防止研修等を実施し、教育公務員としての規範意識を高めたことと回答している。人権研修会では「同所問題」というテーマで11月に実施し、人権感覚の向上を図ることができた。	①HUGの実施に必要な準備を整え、校内外での防災対策の充実を図る。③人権研修や手話研修、AED操作研修などは、規範意識の向上及び、理解や意識を深めていくため、毎年実施していく。	(保護者) ①新校舎稼働後の問題点に速やかに対応し、授業に支障がないように学習環境を整えたこと、75%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。 ③日常点検の実施により危機管理意識を高めると共に、AEDの操作研修や外部講師による人権研修等の事故防止研修を実施し、教育公務員としての規範意識を高めたこと、69%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答している。	①DIGの資料を充実させ、生徒の防災意識が高められた。今後、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組を定期的に行うことが課題 ③事故防止研修を実施している事故防止会議を引き続き実施し、規範意識をさらに高める。